

- ✓ 令和7年8月10日からの大雨により、本市が管理する山ノ下排水機場（河川課）及び坪井ポンプ場（水再生課）では一時的に排水機能の喪失により、稼働に空白の時間が生じた。
- ✓ 各々の排水機場について、停止原因・再稼働までの職員の対応や停止したことによる影響及び再発防止に必要な各種の対策について、検証委員会を設置し、10月16日より3回にわたり審議いただいた。
- ✓ 11月14日に委員会より中間答申が手交された。今後、本市が管理する排水機場等が継続的に安定して稼働するための対策等の検証を行い、令和8年3月に最終答申とりまとめの予定。

1. 坪井ポンプ場についての検証結果

【停止した原因】

- ・ポンプ停止前より周辺はすでに浸水しており、屋外に設置してある受電盤への浸水により安全装置が焼損した

【停止したことによる影響】

- ・浸水痕調査と標高の関係から推定される浸水範囲に対して、浸水への影響は14.5時間で数cmであったと考えられる

【本市の対応】

- ・設備のメンテナンスに関して問題は見受けられない
- ・現場職員の安全を確保しながら非常時対応を行っているという観点から妥当なものであった

【再発防止策】

- ・受電設備を含む施設の耐水化（かさ上げ等）
- ・周辺の流域を含めた浸水対策

2. 開催状況等



- ・第1回検証委員会
（令和7年10月16日）
- ・第2回検証委員会
（令和7年10月27日）
- ・第3回検証委員会
（令和7年11月 4日）
- ・中間答申手交
（令和7年11月14日）

3. 今後の検証事項

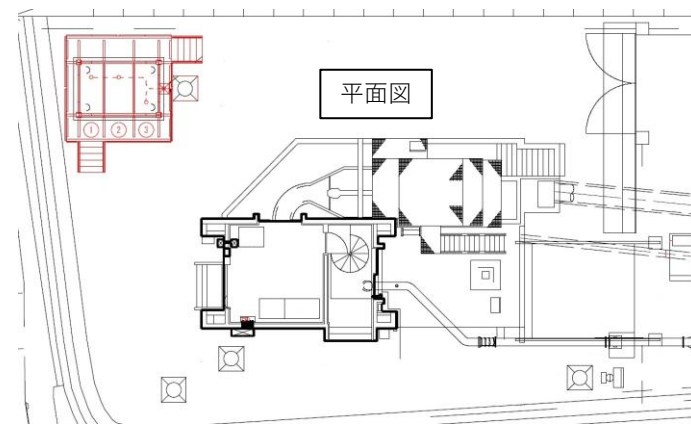
- ・坪井ポンプ場が受け持つ区域周辺の浸水状況を踏まえた浸水原因
- ・坪井ポンプ場の施設の能力と周辺浸水との因果関係
- ・坪井地区を含む城東地区（合流式下水道）浸水解析シミュレーション結果に基づく被害軽減に向けた検討

1. かさ上げ高について

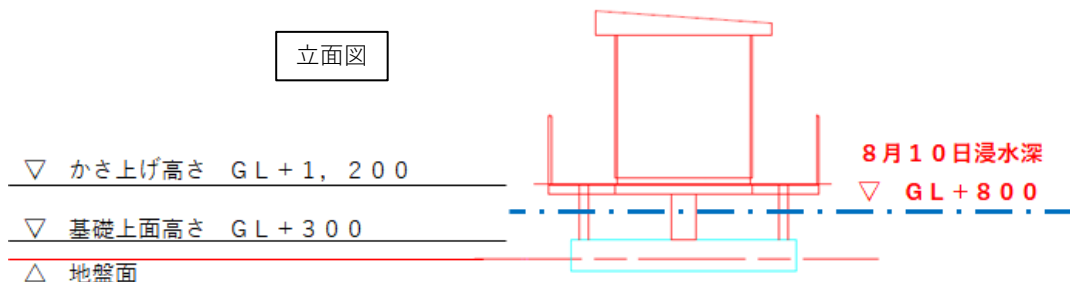
- (1) かさ上げ高
 - ・ポンプ場地盤面から受電盤設置面までの高さを **1. 2 m**とする。
 - ・基礎を作り直すため、現位置から敷地奥に移設を行う。
- (2) 設計根拠
 - ・令和3年度策定の「熊本市公共下水道施設耐水化計画」をベースに、令和7年8月の大雨における、ポンプ場敷地内の浸水深80cmをクリアすることを目的とし設計を行った。



出展：経済産業省 自家用電気工作物における浸水対策の取り組み事例について



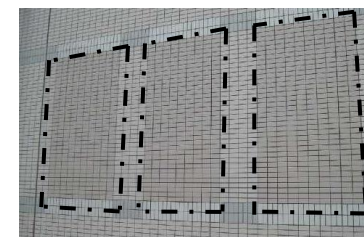
立面図



2. その他工事

ポンプ場建物内に浸水しないよう耐水化工事を行う。

- (1) 防水扉の設置
 - 一般ドアから取替
- (2) ケーブル貫通部の止水処理
 - 電気ケーブルが貫通する場所に止水材を設置
- (3) 開口部の閉塞
 - 窓やガラスブロックなどを撤去し閉塞する



出展：国土交通省 建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン

出展：国土交通省 下水道施設の耐水化の考え方（開口部閉塞）